

～今月の読み物～

「落語と私」 その弐

三代目 橋ノ百圓

前回は“慕^{がまのあぶら}の油”まででしたネ。この噺は大道商^{あきない}、慕^{あきない}の油売りが主人公で当然あの有名な「売口上」が出て来る訳ですから、仕草を大きく声も大きく、通行人を呼び止める様にと教わりました。三ツ目が、有崎勉^{ありきつとむ}作(柳家金語楼先生のペンネーム)“殿様団子”これは、明治維新で禄を奪われた大名の士族の商法ですが、明るく楽しい噺です。今、余り寄席では懸りません。翌年の5月だったと思いますが?「全日寄席」が開催されまして、各学部^{おちけん}の落研が年に一度集まっての発表会で、私は文理落研の代表として、この“殿様団子”をひっ下げて、新宿に有る厚生年金小ホールの高座に上がった訳です。何んと※出囃子^{でばやし}は生演奏で、当日、三味線のお姐さんに「何にします?」と聞かれて、当時の芸名が、立川団地^{たてかわだんち}テュくらいで、誰よりも談志師匠が好きでしたから「ハイ!あの町この町」をお願いしますと答えました。太鼓は現役の前座さんでしたが、名前は忘れまして。ゴメンナサイ。他学部は全員4年生、私は2年生、その上800人?ほど入る会場は満員で、やはり緊張していたのでしょ、落^{おち}の部分^{ぶぶん}を言い澱^{とど}んでしまいました。反省点ですが、出来はマアマアだったと思います。又他学部の先輩とは、今でもお付き合いが在ります。同じ趣味を持つ同士ですから驚く事に、70歳^なに為^なった今でも先輩から「小疇」と呼ばれると、直立不動の姿勢で「ハイッ!」と応える自分がいます。これも又、楽しいものです。さて、その次に覚える噺が大変で、扇馬師匠の師匠にあたります。四代目 三遊亭圓馬師匠^{えんば おお}(大師匠)のご自宅へ連れて行かれまして、大師匠から“淀五郎”と言う、芝居の人情噺を扇馬師匠と一緒に習うことになったのです。扇馬師匠もご自身が付けて貰^{もら}いたかったのですが、マア序^{ついで}でに私もと思ったのでしょ、お稽古の前に大師匠に“やかん”を聴いて頂きました。これは、私の技量を計^かりたかったのだと思います。扇馬師匠と2人並んで噺を付けてくれたのですから、合格だったのではしょ!?扇馬師匠と二人での稽古は、その1回で、後は私が一人で地下鉄丸ノ内線にある、中野坂上に通うのですが、お稽古が10時始まりで、その30分ほど前に行きまして、台所の片付けとか2階の掃除を軽く済ませてから、急な梯子段を昇^{のぼ}って2階の部屋で、お稽古を着けてくれました。この時も三偏稽古ですから、残りは2回です。何しろ初めて聴く噺ですから、マルデ自信が無かったのですが、流石の集中力ですネ。3回で覚えられたのです。これは、ペイペイ役者の沢村淀五郎と言う歌舞伎俳優が、ヒョンなことから座頭^{ざがしら}の市川団藏^{なだい}から名題^{なだい}に引き上げられ、忠臣蔵の塩谷判官^{しんやはんくわん}の大役^{だいやく}を任^まされると言う芝居噺ですから、芝居の仕草が多く、台詞^{せりふ}の言い回しにも苦勞しました。週1回ずつの稽古が済み、大師匠のご自宅で仕上げを見て頂き、これも何ヶ処かの駄目を出された後に、大師匠から、この噺の大事な部分を細かく説明を受けました。別に大したお礼の品を持って行った訳でも無いのに、誠に有難いことと頭^{かぶ}が下がります。寄席でも真打^{まうち}噺として高座^{かき}に懸^かりますが、大筋では、圓生流、正蔵流、そして圓馬流と3つの演じ方が在る様に私は思います。詳しいことは、直接訊^ききに来てください。その後、大師匠には、もう一ツ軽い噺を教^{おし}わりましたが、この“淀五郎”は、私の宝として大事^{たいじ}にしています。それから数年後、病に倒^たれられ、ご自宅近くの小原病院に入院をし、師匠と

一度お見舞に伺った時に「君には淀五郎を教えたナ」と言われ、胸が熱くなりました。長い入院の為か？落語芸術協会会長を務めた方にしては、寂しい葬儀でした。昭和59年11月の寒い日のことです。現在は、平成14年に五代目 三遊亭圓馬が誕生しております。もう15年も経っていますが、どうぞご鼠^{ひいき}肩のほど宜しくお願い申し上げます。この間に扇馬師匠が真打に昇進をすると言う、一大慶事が有る訳ですが、それは又この次に致します。次回もお楽しみに・・・

「落語豆知識」

※「出囃子^{でばやし}」

この号の初めに、談志師匠の童謡「あの町この町」と書きましたが、談志さんは二ツ目昇進時にこの出囃子に決まりました。昭和38年に七代目？（これには諸説在りますが）立川談志で真打に成った時も、しばらく、この「あの町この町」で高座に上ってましたが、その後数年して「木賊狩り^{とくさきが}」に変わりました。

この出囃子は、大体が楽屋で三味線を弾いて居るお姐さん方が、二ツ目に成った時に、その人の出身地、芸風、人柄、芸名などを考え決めますが、代々受け繋られている曲も有ります。

例、圓馬＝圓馬囃子、雷門助六＝助六^{あが}上り、この辺は当り前ですネ、林家正蔵＝あやめ浴衣、三遊亭圓樂＝元禄花見踊、林家三平＝祭り囃子、芸名ですと、桂米丸＝金毘羅舟々、桂歌丸＝大漁節 など丸は、舟に、舟は水にと言う関係です。出身地ですと、桂幸丸＝会津磐梯山（福島出身）等、無論、色物にも有りまして、漫才のナイツ＝ホームランブギ、小菊姐さん＝六段くずし

因^{ちなみ}に笑点メンバーの出囃子を紹介します。左、司会者から、春風亭昇太＝デビークロケット、三遊亭小遊三＝ボタンとりボン、三遊亭好楽＝づぼらん、林家木久扇＝宮さん宮さん、三平、圓樂、林家たい平＝ぎっちょ です。

